

思い出

「船頭町」子どもの頃の思い出

高 司 良 恵

(会員 佐伯市宇山)

「佐伯史談」一九一号から一九九号まで、「船頭町子ども頃の思い出」を投稿させていただきました。以後しばらく中断していましたが、今回二二四号から意を決してペンを執る事に致しました。まだまだ沢山の思い出が脳裏を駆け廻っています。

「子どもの頃」、歴史的背景は昭和十二年頃から二十年前まで、わたしの小学校から女学校の頃の思い出です。

船頭町の商店（七）

(12) 傘干しと べんけい蟹



大日寺の右前に、間口の広い府高の傘屋さんがあった。店の左側が傘、右側に文房具を売っていた。

傘作りのおじさんは、色の白いふつくらとした大柄の

方だった。

おじさんを見かけるのは、傘を干しに行く途中だった。製作中の番傘をリヤカーに積んで、船頭町の横丁を通過して池船橋を渡り、池船を番匠川添いに行き、黒い長瀬橋を渡ってすぐ右側の田んぼが乾し場だった。田んぼには傘の柄が突きさされる様に穴があつて、それに差し込んでいた。ある日、おじさんについて傘干し場について行き、傘を立てようとしたら、その穴から赤いべんけい蟹が出て来て手を挟まれ、びっくりしたのと、怖さに思わず手を振って払いのけようとしたが、あの赤黒い毛の鋭でぎゅうとはさまれ、恐ろしくてどうしようも出来なかった。帰って母に治療してもらった。赤チン(薬)を塗ってもらったが、結末は爪がとれてしまった。

雨上がりの「べんけい蟹」を見ると、あの挟まれた時の怖さがいまだに想い出される。

(府高の傘屋さんは、現在のフタカ薬局さんです。)

(13) お茶・椎茸の香川商店

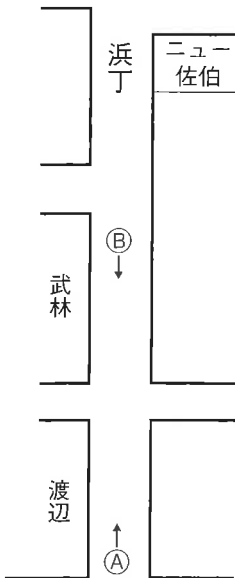
久方振りに船頭町を散策した。随分空き家、空き地が多く駐車場になっている所が目立つ。また、商店街の中に住



①浜丁通り

左手前は渡辺さん宅。
間口が広く、二階は当時のまま、前方は住吉神社

宅が建てられている。横丁の現「村雨」附近、浜丁通りは、まだまだ古い商家の名残りをとどめている家が見られる。だが商店も少なく通りは閑散として人通りもほとんど見られず、淋しい気持ちはどうすることも出来なかった。私たち子どもにとって、船が帰ったあとは格好の良い遊び場だった。資料の写真は現在の通りの姿で、にぎわったあの浜丁風景は想像することができない。



②浜丁通り

①から下がつて来た所から、右側に古い建物が残っている。右電信柱の所が武林菓子店



◎上本丁から下本丁通りを見る
人通りも少なく空き地が目立つ。にぎやかな商店街だったけど。札幌前から本丁全体を見る

香川商店を尋ねて

船頭町には、お茶屋さんが少なく、子どもにとっても関心は薄かった。

上本丁にお店を持つ「香川商店」は、お茶・椎茸を商っている。この上本丁の古いお店は三輪荒物店、大地



酒造、住吉館（映画）、加藤洋服店、吉沢歯科医院、ちちぶや呉服店、川辺ガラス店、陰山医院、神田散髪店、濱田鮮魚店、フジサキ洋服店、平岡屋（旅館）などがあった。今は店を閉じたり、空き地になったり、新しい住宅に建てかえられたりしている。

年月は、時代の変貌と共に、町並みもすっかり代わって、知人も少なく、寄り所のない自分につきまじりさが横切った。そして、思い切って香川商店を尋ねた。

白壁の家、間口は広く、暖簾が下がっていて格子の窓が一層落ち着いた雰囲気を漂わせていた。

お店に入ったところ、店主の隆喜（たかき）さんが、外出から帰って来たところだった。早速、お話をさせていただくことができた。



香川商店内の茶箱

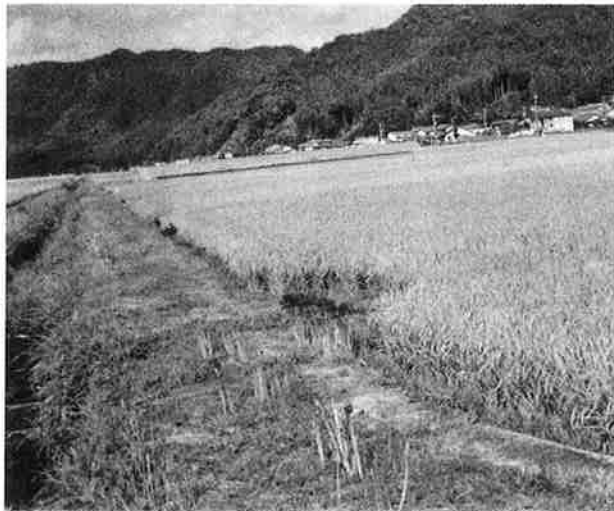


残された資料「記録」

香川商店は、明治三十年頃、初代香川実蔵さんが創立し、二代目繁夫さん、三代目が現在の隆喜さんが百年以上の伝統を守り続けて、商いを地道に続けている。お互い同年同士であったので、昔の船頭町の事が色々と話題が話題をよんで話が弾んだ。ふるさと船頭町、生まれ育った原風景は、みんな一人一人、心の奥深くに息づいているんだなあと考えた。店主の隆喜さんは歴史関係に関心が深かった。びっくりしたのは資料が整然と保管されているのには敬服した。残された資料、なによりも貴重なものである。船頭町の歴史は、本当に先輩の残した「記録」は、まさに生きた証しといえる。

話は尽きないまま、次回にとお願いして辞した。

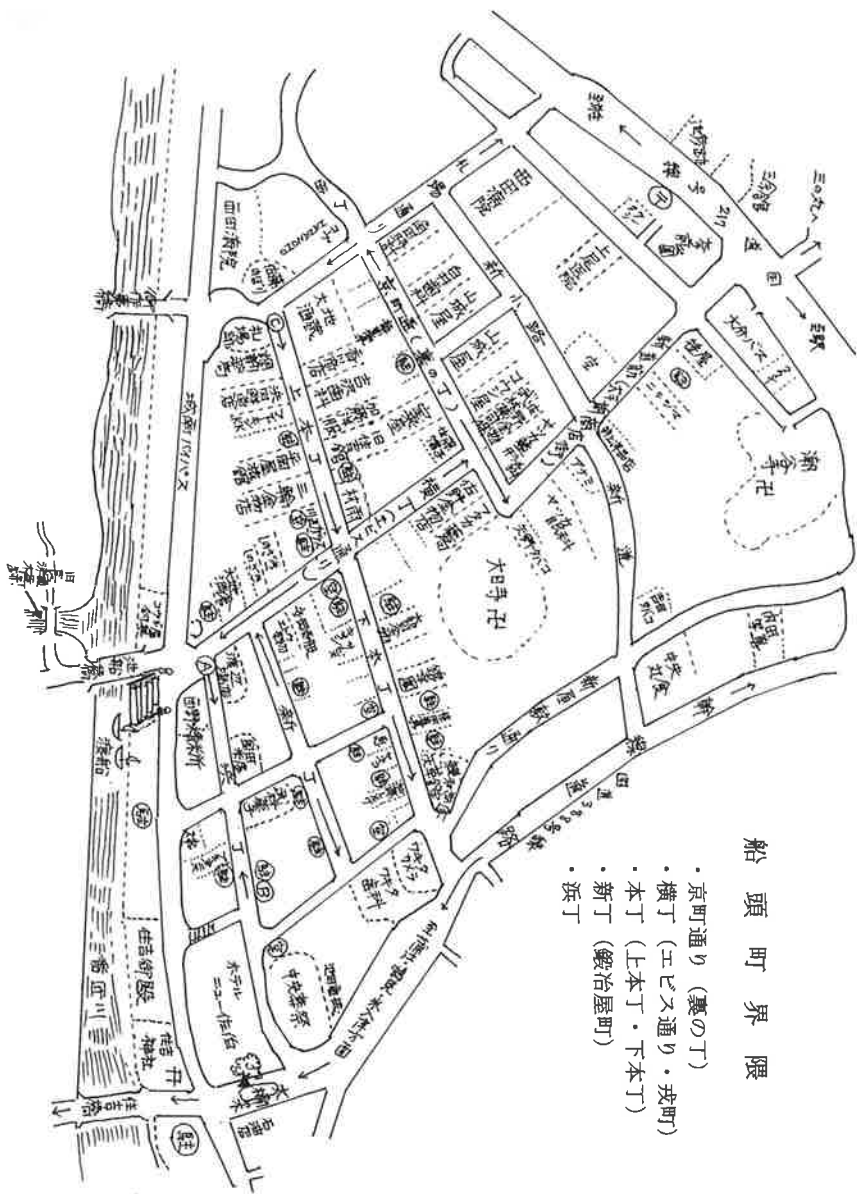
《ふるさとの秋》



はるか前方の稜線は高城山（佐伯市上城）

○彼岸花 約束どおり 咲きにけり
○山門に 続くこの道 曼珠沙華

良 恵 句



船頭町界隈

- ・京町通り (裏の丁)
- ・横丁 (エビス通り・戎町)
- ・本丁 (上本丁・下本丁)
- ・新丁 (鍛冶屋町)
- ・浜丁